

CDM 理事会第 31 回会合

2007 年 5 月 2 日－5 月 4 日 ドイツ・ボン

結果概要 (“Meeting Report” 要約)

(会議主催者による公式議事録ではありません。[原文](#)と併せてご覧ください)

2007 年 5 月 8 日

CDM理事会結果概要

- ① 方法論関連では、6 件の方法論が新たに完成したほか、省エネ CDM 促進のための方策が検討された。
- ② 小規模 CDM 関連では、新たに 2 件の方法論が承認された。AMS III. L (熱分解を制御することによるバイオマス腐食からのメタン排出回避) と AMS III. M (製紙工程からの苛性ソーダ回収による電力消費削減) である。承認済み小規模方法論の改定も行われた。
- ③ CDM プロジェクト登録、CER 発行については、レビュー申請が提起されたプロジェクトを個別に検討した。レビュー済みのものはその結果をもとに対処を決定した。なお、2007 年 5 月 8 日現在、登録プロジェクト数は 655 件、発行済みクレジットは 45,923,978 CERs。

1. 運営機関の信任

信任パネルの第 18 次進捗報告を信任パネル議長から受けた。

信任パネルの提案する様々な一般指針のほか、スポットチェックをした DOE の対処が検討された。一般指針には理事会の要件や指示に従わない DOE の対処や、DOE との意見交換の強化や、検証・有効化審査レポートの質を高めるための DOE への指針などが含まれる。

スポットチェックが行われた DOE の対処については、当該 DOE の対応を考慮し、信任を取り消さないこととした。当該 DOE が現在関わっている 3 件のプロジェクトの作業は信任パネルの監視の下で行われる。

新たに信任された運営機関は今回なし。

2. ベースライン及びモニタリングの方法論

2-1. 新方法論の審査

Meth パネルの提案をもとに、以下を決定した。

(1) 承認 (A 判定)

**NM0141-rev**(ナイジェリアのコジェネ)→**AM0048**(コジェネ新設により、電力・スチームを

複数の顧客に提供し炭素集約的な燃料を用いる系統/非系統スチーム及び発電に置き換える)となった。スコープ 1 (エネルギー供給)。 [Annex2](#)参照

**NM0161-rev** (南アフリカのコジェネ) → **AM0049** (産業設備における天然ガスエネルギー生産) に組み込む。スコープ 4 (製造業)。 [Annex3](#)参照

**NM0165-rev** (インド・肥料工場のナフサから天然ガスへの燃料転換) → **AM0050** (アンモニア尿素製造産業での燃料転換) となった。スコープ 5 (化学)。 [Annex 4](#) 参照。

**NM0174-rev** (中国の廃棄物燃焼プロジェクト) → **AM0025** に統合させる。 [Annex5](#)参照

**NM0176-rev** (亜酸化窒素削減プロジェクト) → **AM0051** (硝酸プラントにおける二次的触媒N2Oの破壊)。スコープ 5 (化学)。 [Annex6](#)参照。

**NM0179-rev** (排ガス・排熱有効利用) → 現在Methパネルが開発している「排ガス、排熱、排圧ベースのエネルギーシステムの統合方法論」に組み入れることとし、次回の理事会会合までにMethパネルはレビューすることとする。

**NM0186** (アゼルバイジャンにおける意思決定支援システムを通じた既存水力発電の発電量増加) → **AM0053** (既存水力発電への意思決定支援システムを通じた既存水力発電の発電量増加)。スコープ 1 (エネルギー供給)。 [Annex7](#)参照。

## (2) 差し戻しする方法論案 (B 判定)

以下の方法論案につき、必要な修正点を指摘しプロジェクト参加者に差し戻し。

**NM0194**、**NM0197**、**NM0200**、**NM0202**

## (3) 承認しない方法論案 (C 判定)

**NM0142-rev**、**NM0170-rev**、**NM0195**、**NM0204**

### 2-2. 承認済み方法論の改定

**AM0014** ([Annex8](#))、**ACM0007**([Annex9](#))、**AM0023**([Annex10](#))、**ACM0006**([Annex11](#))の改定が合意された。

### 2-3. 省エネプロジェクトについて

省エネ CDM プロジェクトについて理事会で議論された。ポテンシャルは大きいものの、方法論的課題、追加性上の課題がある。理事会は、省エネプロジェクト実施を行うための環境を作ることを目的に、事務局に現在のモダリティ内でとりうる対策を文書にまとめるよう要請した。次回会合で再び検討される。

次回の Meth パネルは 2007 年 5 月 28 日-6 月 1 日開催予定。

### 3. 吸収源 CDM 関連事項

新しい方法論の検討はなく、新規植林・再植林プロジェクトの土地適格性立証手続き案の検討と同案に対するパブリックインプットの募集 ([Annex14](#))、炭素プールの変化をモニタリングするための計算ツール案の検討・承認 ([Annex 15](#)) などが行われた。

次回の A/R WG 会合は 2007 年 6 月 4 日-6 日開催予定。

### 4. 小規模 CDM 関連

#### 4-1. 新方法論の承認

**AMS III. L** (熱分解を制御することによるバイオマス腐食からのメタン排出回避) [Annex17](#) 参照。

同方法論は有機物から発生するメタンを回避・軽減するプロジェクトに適用する。このようなプロジェクトなしでは当該有機物はメタン回収設備のない廃棄物処分場で嫌気状態で腐食する、というのがベースライン。この方法論では、制御された熱分解によって腐食を防ぐ。

**AMS III. M** (製紙工程からの苛性ソーダ回収による電力消費削減) [Annex18](#)参照。

同方法論は、製紙工程で発生する黒液から苛性ソーダを回収するプロジェクトに適用する。

なお、理事会より、小規模 CDM ワーキンググループは運輸部門のバイオ燃料の新方法論を引き続き開発中であることが述べられた。

#### 4-2. 承認方法論の改定

**AMS I.A**([Annex19](#))、**AMS I.C**([20](#))、**AMS I.D**([21](#))、**AMSIII.D** ([22](#))、**AMS III.I** ([23](#))、**AMS II.D**([24](#))、**AMS III.F** ([25](#))

次回の小規模 CDM ワーキンググループ開催は 2007 年 5 月 23 日-25 日開催。

### 5. CDM プロジェクトの登録

登録のためにこれまで提出されたプロジェクトに関する情報は[こちら](#)。

2007 年 5 月 8 日現在、登録プロジェクト数は 655 件。

#### 5-1. 登録申請にレビューリクエストが提出されたプロジェクト

CDM 理事会では、今会合前にレビューリクエストが申請された 16 件のプロジェクトを検討し、レビューを実施するかそれともレビューなしで登録を承認するか決めた。

① レビューなしで登録が承認されたプロジェクト 2件：  
中国埋立地ガス回収・有効化プロジェクト(0887)、中国セメント工場排ガス回収・発電(0898)

② 修正を条件にレビューなしで登録が承認されたプロジェクト 5件：  
ブラジル小規模水力(0809)、インド水力発電2件(0862、0895)、中国炭層メタン発電(0892)、  
インドメタン回収・燃料利用 (0945)

③レビュー実施が決定されたプロジェクト 8件  
ブラジルセメント製造工程における高炉スラグ利用 2件 (0754、0854)、インドセメント  
工場省エネ2件 (0859、0954)、インドセメント製造工程の混合物増2件 (0861、0863)、  
インド排熱発電 (0872)、インド苛性ソーダ・シアン化ナトリウム工場での省エネ・エネルギー  
転換 (0951)

#### 5-2. レビューチームのレビュー結果

レビューが完了プロジェクトにつき、結果を検討し、3件の登録を承認した。

[http://cdm.unfccc.int/Projects/under\\_review.html](http://cdm.unfccc.int/Projects/under_review.html)

メキシコ糞尿メタン (0463)、インドバガスコジェネ (0577)、メキシコ水力 (0785)

#### 6. CERの発行・CDM登録簿

CERの発行状況は[こちら](#)。

2007年5月8日現在、45,923,978 CERsが発行された。

1件に提起されたレビュー申請(ブラジル木材バイオマス発電(0168))を検討し、レビュー  
を実施せず、修正を条件にCERを発行することと決めた。

また、DOEであるDNVから、以前、レビューの後CER発行が却下されたメキシコ糞尿  
メタン2件(150、0163)について、CER発行申請を再提出したいとの要望があり、再提  
出が許可された。

次回のCDM理事会会合(第32回)は2007年7月20日-22日に開催予定(暫定版議題は  
[Annex38](#)参照)。

以上